

いそいち
五十市地区

おおよど 西側の西側に広がる麓原台地南部から鹿児島県と接する梅北台地西部をしめる
五十市地区。「五十市」の名は、明治時代の町村合併時(明治22年)、「五十町」の「五十」と「横市」の「市」をとって「五十市村」とつけられたことに由来します。

①都城古墳(鷹尾1丁目) 古墳 近世 p11

都城盆地で最も内陸に残された円墳です。現在の大きさは、東西約11m、南北約9.7mですが、もともとはもう少し大きかったと考えられます。

また、円墳の周りからは、地下式横穴墓が3基見つかったと言われています。現在、県の史跡に指定されています。



都城古墳の現在の様子

③宮尾・立野遺跡(今町) 縄文 弥生 中世 近世 p9 柱

国道269号線の幅を広げる工事を行った時にほぼ完全な形の土器が見つかりました。当時、この場所が、五十市村であったことから「五十市式土器」と名づけられました。現在、都市指定文化財となっています。



五十市式土器

⑤黒土遺跡(大岩田町) 縄文 弥生 中世 近世 p10

分譲住宅をつくる時に発掘調査を行いました。縄文時代の終わりから弥生時代の初めのころにかけての遺跡です。土器の粘土に米粒が入っていたり、米粒の痕が残されていたりしたことから、この頃に都城で米作りが行われていたことがわかりました。



土器に残された米粒の圧痕



土器の粘土に残された米粒



石斧(土掘り具か)



石包丁

紐を通す穴が擦り切りによってあけられている。朝鮮半島でも見られる。



弥生時代初め頃の土器(壺)

赤い顔料(絵の具のようなもの)が塗られている。

②西原第2遺跡(久保原町) 縄文 中世 近世

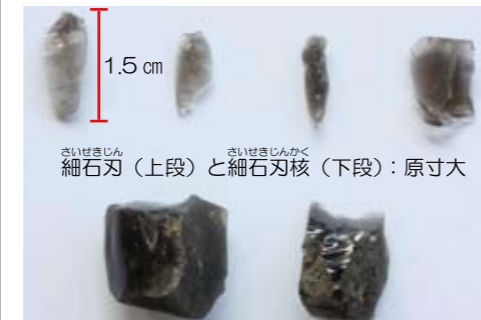
明和小学校をつくる時に発掘調査が行われました。ここからは、縄文時代(後期)の土器や石器が見つかりました。



左: 鎌のような石器

④大岩田上村遺跡(大岩田町) 旧石器 縄文 弥生 中世 近世 p5

今から1万3千年くらい前の旧石器時代の遺跡です。都市に人が住み始めた頃の様子を知ることの出来る貴重な遺跡といえます。



細石刃(上段)と細石刃核(下段): 原寸大

写真提供: 宮崎県埋蔵文化財センター

⑥横尾原遺跡(大岩田町) 古代

シラスをとる工事の時に、奈良時代の壺が2つ見つかりました。

これは、「蔵骨器」といって火葬した骨を納めたものです。

*当時は身分の高い人しか火葬は許されていませんでした。



蔵骨器



骨製のかんざし?(蔵骨器内出土)

⑦今町一里塚(今町) 近世 柱

「一里塚」とは、江戸時代に主要な道路の一里(約4km)ごとにおかれた道しるべです。今町一里塚は、薩摩藩の街道(今町街道)に置かれたものです。九州の一里塚で、唯一の国指定史跡となっています。



西側の一里塚(左)と東側の一里塚(右)



- 【そのほかの遺跡と史跡】
- 縄文時代: 岩立遺跡・大岩田村ノ前遺跡
 - 弥生時代: 諸麦遺跡・働女木遺跡
 - 古墳時代: 平峰遺跡
 - 古代: 筆無遺跡・梅北針谷遺跡・女橋遺跡
 - 中世: 仁蔵寺跡・龍峯寺跡・網垂寺跡
 - 八幡城遺跡・瀬戸ノ上遺跡
 - 油田遺跡・大岩田城跡・女橋遺跡
 - 近世: 楠見家の門と土蔵

